

連続講座第7回

メディアは 全ての人権のため 隠された真実を暴け

市民の視点から浦添西海岸問題を考える

資料代：500円

4月12日 土

シンポジウム

オンライン参加 無料 (要事前申込)

ところ：沖縄大学本館1階同窓会館

とき (18:00~20:50) 開場：17:30

浦添西海岸の里浜活動の動機と目標

「基地反対」「基地撤去」の声が強くなればなるほど選挙などでは支持が減少していく。何故か？ その背景に沖縄独特の「土地問題」がある。今からでも振り返る意義があるかどうか含め、港川の活動を通して提起します。



港川自治会前会長。20年間会長として港川の自然海岸「カーミージー」での生き物観察などの活動を行ってきた

銘苺全郎

(めかる ぜんろう)

浦添西海岸現地視察

とき (13:30~15:00) 13:00 現地集合
詳細は裏面記載



軍港移設は本当に機能維持か

那覇軍港移設について、防衛省は「現在的那覇港湾施設の機能を維持する」と説明し、それを前提に県や浦添、那覇の両市は移設を容認している。本当に機能維持にとどまるのか。基地機能強化につながる可能性を論じる。

明真南斗

(あきら まなど)

琉球新報記者、政経グループ県政班で基地問題全般を担当、22年から東京支社報道グループで主に防衛省を取材

開発と住民自治の観点で考える浦添軍港問題

日本の政府開発援助と基地にリンクした振興開発の類似性と、その対局とも言えるSDGs時代のcommons(地域共有の資源)をベースにした住民主体の開発のあり方を考える。

日本国際ボランティアセンター元代表・現顧問、「台湾有事」を越えさせない・沖縄対話プロジェクト発起人、土地規制法対策沖縄弁護団

谷山博史

(たにやま ひろし)



1月17日に開催した連続講座第6回では、浦添の海が素晴らしい海だということを知りました。今回の連続講座第7回では、西海岸で暮らす住民が素晴らしいこの海とどのようにかかわってきたのかを学びます。その学びを深めるために、講座に先だって浦添西海岸(カーミージーの海)の観察会を行ないます。また第6回では軍港が那覇から浦添に移設されることとなった歴史的経緯について学びましたので、今回はそれを深掘りし、軍港移設問題を軍事の視点から、また住民自治の観点から考えていきます。

主催：沖縄・琉球弧の声を届ける会 共催：沖縄大学

共同代表 | 桜井国俊・丹原美穂・与那覇恵子 | 連絡先：090-6868-6232 (桑江直哉)

浦添西海岸現地視察

日時:4月12日(土) 13:00集合 13:30~15:00(90分)

参加可能人数
先着15人迄

参加費 保険料
1人500円 込み

ガイド:浪岡光雄さん
(カーミージーの海で遊びたい)

準備するもの:濡れてもよい服装(膝より下が海に浸かる)、帽子、タオル、水筒、濡れても良い靴・運動靴(ビーチサンダルや長靴はダメ)

参加申し込み:与那覇恵子さんに、E-mailにて「氏名、電話番号、年齢」を明記して申し込んで下さい。先着15名。集合場所まで誘い合わせて車で来て頂ける方歓迎。

k.yonaha@mail.meio-u.ac.jp



<駐車場・集合場所案内>



集合場所・解散場所
浦添北ICの西隣(サンエー・パルコ側)の無料駐車場右側のP(トイレ有)

沖縄・琉球孤の声を届ける会
ホームページはこちら

<https://ryukyukohp.jimdofree.com/>



オンライン参加の申し込み先

参加申込・ご寄付は
Peatix サイトより



ハイブリット配信

会場 沖縄大学本館1階同窓会館

申込不要

資料代 500円

オンライン ZOOM 申込必須

参加費無料

○ 後日、「沖縄・琉球孤の声を届ける会」Youtube チャンネルにてアーカイブ配信予定です。

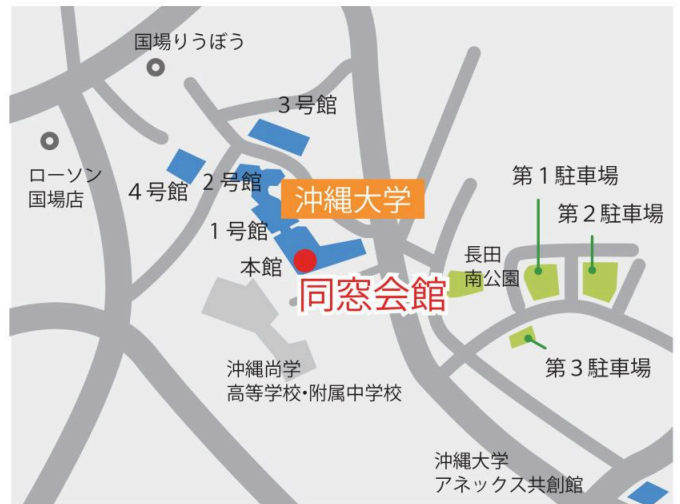
ご寄付・カンパのお願い!

振込先

沖縄銀行泡瀬支店 普通 1941039
オキナワリュウキュウコノコエヲトドケルカイ
(沖縄・琉球孤の声を届ける会)

PeatixにてWebからオンラインで寄付も受け付けます
詳しくは以下サイトから
<https://ryukyus.peatix.com/>

会場アクセス



沖縄大学 那覇市字国場 555

大学駐車場有り

バスをご利用の場合 市内線 那覇バス 6番

市外線 (那覇バスターミナル乗車)

35番 40番 309番 235番

賛同団体 泡瀬干潟を守る連絡会、沖縄環境ネットワーク、嘉手納ピースアクション、基地・軍隊を許さない行動する女たちの会、ジュゴン保護キャンペーンセンター、ノーモア沖縄戦命どう宝の会、平和市民連絡会、ヘリ基地反対協議会、ミサイル配備から命を守るうるま市民の会、NPO 法人奥間川流域保護基金、普天間基地爆音訴訟団、有機フッ素化合物 (PFAS) 汚染から市民の生命を守る連絡会、日本ジャーナリスト会議、日本ジャーナリスト会議沖縄